

リンパ球クロスマッチの取扱いについて

1. 現在の取り扱いについて

- 現在、心臓移植希望者（レシピエント）において、前感作抗体は選択基準の中の適合条件として臓器ごとに以下のとおり定められている。

心臓

リンパ球直接交差試験（ダイレクトクロスマッチテスト）を実施し、抗T細胞抗体が陰性であることを確認する。パネルテストが陰性の場合、リンパ球直接交差試験（ダイレクト・クロスマッチ）は省略することができる。

肺

ダイレクト・クロスマッチを実施し、陰性であることを確認する。パネルテストが陰性の場合、ダイレクト・クロスマッチは省略することができる。

肝臓

当面、選択基準にしないが、必ず検査し、登録する。

膵臓

リンパ球交差試験（全リンパ球又はTリンパ球）陰性

腎臓

リンパ球交差試験（全リンパ球又はTリンパ球）陰性

小腸

当面、選択基準にしないが、必ず検査し、登録する。

2. 発生した事象

- 本年2月の提供事例で、採血検体からリンパ球が分離できない事例が発生した。心臓、肺に関してはパネルテストで代用したが、膵臓、腎臓のあっせんについては、開腹時（臓器摘出手術時）にリンパ節と脾臓を摘出し、ここからリンパ球を抽出し検査を実施した上であっせんを行う予定とした。

実際には、術前の採血検体を他の検査施設に送付したところ、リンパ球の分離に成功し摘出手術前にあっせんを行うことが可能となった。

3. 作業班での検討事項

- 今後同じような事象が発生した場合に、どのように対応することとしたらよいか。

【案1】従来通り

リンパ球が採血検体から分離できない事例の場合、開腹時（臓器摘出手術時）にリンパ節と脾臓を摘出し、ここからリンパ球を抽出し検査を実施した上であっせんを行うこととする。

【案2】心臓、肺の選択基準と同様に変更する

心臓、肺の選択基準と同様に、脾臓、腎臓の前感作抗体も「ダイレクト・クロスマッチを実施し、陰性であることを確認する。パネルテストが陰性の場合、ダイレクト・クロスマッチは省略することができる。」に変更することとする。